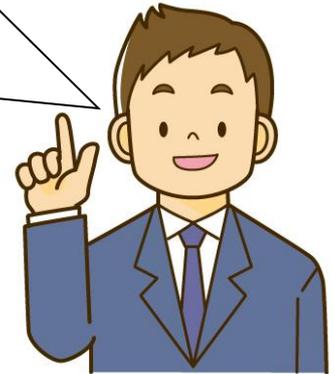


グループなどで交流を促すときは

人にはそれぞれ自分なりの見方・感じ方がありますが、「立場が違えば、見方が違う」ということも、よくあることです。

それを「いい・悪い」「正しい・まちがっている」と判断するのではなく、互いの「違い」を尊重し、分かち合うことで相互理解や納得につながっていきます。

さまざまな立場・さまざまな考えの人が関わるからこそ新たな視点やアイデアが生まれて学びが深まったり、自分一人ではわからなかったことに気づいたりします。



基本的なコミュニケーションの留意点は、1対1でもグループでも同じです。グループの誰もが安心して自分のことを話せるように、次のようなルールをみんなで守ることが大切です。

1 お互いの気持ちや考え、感じ方などを尊重すること。

- 他の人の意見をしっかり聴き、自分の気持ちにも耳を傾けてみましょう。
- だれかのことを批評したりせずに、「私は～」と自分を主語にして話しましょう。
- 一人で話しすぎないようにしましょう。

2 対等な気持ちで参加すること。

- 参加者の間に上下の関係はありません。自分のことも、他の人のことも、「かけがえのない対等人」として敬意を払いましょう。
- 結論を出したり、だれかが教える場ではありません。お互いが学びあえるように、気持ちよく話し合える場をみんなでつくっていきましょう。
- 無理をせず、自分らしい参加をしましょう。発言は強制ではなく、聴いているだけでも十分参加していることになります。

3 参加者の個人情報、プライバシーを守ること。

- お互いが安心して話ができるようにするためには、「ここで話された内容や個人の情報は外に持ち出さない」という約束が欠かせません。お互いの個人情報やプライバシーを守りましょう。

子育ての悩みを相談するには

北海道の主な相談機関（家庭教育関係）には、下のよう
なものがあります。

ナビゲーターは、子育てに関するいろいろな相談を受け
ることもあると思いますが、そうした方々から専門的な
相談機関について尋ねられたときには、情報提供すると
よいと思います。



子育ての悩みや不安についての相談を受け付けている機関

●教育相談（子ども相談支援センター）



いじめ・不登校などの学校教育に
関する悩みや、子育て・しつけな
どの家庭教育に関する悩みについ
ての相談に対応しています。
TEL：0120-3882-56

●チャイルド相談（[公社] 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター）



家庭教育・しつけに関して相
談を受けています。
TEL：011-251-5394

●子育てカウンセリング（北海道立生涯学習推進センター）



子育ての悩みや不安などについて、
臨床心理士がカウンセリングを行
います。下記の番号で面接の予約
ができます。
TEL：011-261-4545

●チャイルドラインほっかいどう（認定 NPO 法人チャイルドラインほっかいどう）



子ども自身で解決策を見つけ
ていけるように、スタッフが
支援する「子ども専用電話」
です。
TEL：0120-99-7777

●教育相談（北海道立特別支援教育センター）



障がいのある子どもの保護者等に
対し、就学や発達等の相談を受け
ています。
TEL：011-612-5030

市町村教育委員会や PTA でも、保護者向けの学習機会と
して家庭教育学級や研修会などを開催しています。講話や座
談会、親子体験教室などを楽しみながら交流できる企画がた
くさんありますので、ぜひ、まちの広報誌や学校便り、関係
のホームページなどをご覧ください。

上記のほかにも、まちの相談機関などがあれば情報をメモしておきましょう。

家庭教育ナビゲーターの心得 8 箇条

1. 「尊重・対等・守秘」 3つのルールを守ろう。

そこに参加しただれもが安心して話したり聴いたりできるように、「＜尊重＞しあいながら、＜対等＞な気持ちで、プライバシーを＜守秘＞する」、3つの約束をみんなで守ろう。

2. ナビゲーターも参加者の一人。

楽しみながら、いっしょに学ぶ姿勢でいよう。

背負わず、入り込みすぎないように、相手にも自分にも敬意をもって、聴こう、話そう。ねぎらい合おう。

3. ちがいは豊かさ、「気づきのモト」ととらえよう。

そのとき感じる気持ちや感じ、考え方や価値観などは、人それぞれ。

＜ちがい＞や＜多様さ＞を「豊かさ」ととらえよう。ちがうからこそ、気づきが生まれる。

4. 一人ひとりのもつ力を信頼して、しっかり聴こう。

「だれもがその場に貢献できる何かをもっている」。そんな気持ちで、どんな人の話にもすなおに耳を傾けよう。

5. 自分の経験や考えを押しつけないように話そう。

自分の経験や考えが、そのまま他の人に当てはまるとは限らないことを忘れないでいよう。

6. ほかの参加者への配慮を忘れずに。

だれもが安心して、自分らしく参加できるように、参加者全体に気を配ろう。

特に「初参加の人」「話さない（話せない）人」が居心地よくいられるように。発言がなくてもOK。

7. どんな人も、ともに生きられる地域に。

問題を一人で抱えこんでしまわないように、気になったときや困ったときは声をかけよう。

「いつでもつながって仲よく」というより、困ったときにSOSが出しあえる、ゆるやかな関係づくりをめざそう。

8. ナビゲーターの役割を忘れずに。

自分だけでは抱えきれないような相談を受けたり、困ったときは、教育委員会へ。一人で抱えこまずに、相談しよう。